

様式3

教員資格及び教育内容等の自己評価書様式

【自己評価 1-1】専任教員の配置状況

学部・学科等の名称	専任教員数								非常勤教員	専任教員一人あたりの在籍学生数	備考
	教授	准教授	講師	助教	計	基準数	うち	助手			
							理学療法士又は作業療法士数				
総合リハビリテーション学部 作業療法学科	5人	0人	6人	1人	12人	8人	12人	0人	20人	15.8人	
	人	人	人	人	人	人	人	人	人	人	
計	5人	0人	6人	1人	12人	8人	12人	0人	20人	15.8人	

【自己評価 1-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正であり、かつ関連領域を教授できる医師等の専門家が配置されている。	3
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の配置人数が適正である。	2
	理学療法士又は作業療法士である専任教員の人数が適正でない。	1

【自己評価 1-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	全ての養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	4
	9割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	3
	8割以上の養成施設指導ガイドラインの教育内容（講義）を専任教員か、専任教員と同等以上の知識を有する教員が担当している。	2
	上記以外である。	1

【自己評価 1-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、全員が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	3
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、一部が臨床に携わることで臨床能力の向上に努めている。	2
	専任教員（理学療法士又は作業療法士）は、臨床に携わることで臨床能力の向上に努めていない。	1

【自己評価 2-1】養成施設指導ガイドラインとの連動状況

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・ 兼任)	
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	基礎ゼミナール	1	中村 めぐみ	専任	
			7	阿部 秀高	専任	
			1	伊藤 直子	専任	
			1	松下 太	専任	
			2	金森 幸	専任	
			2	兼田 敏克	専任	
			2	鍵野 将平	専任	
			物理学	15	久国 正章	兼任
			生物学	15	安部 辰夫	専任
			化学	15	安部 辰夫	専任
			情報処理	15	佐久間 俊	専任
			統計学	15	井手口 範男	専任
			心理学	15	神澤 創	兼任
			生命倫理学	15	日高 明	兼任
			哲学	15	松枝 啓至	兼任
			社会福祉学	15	掛川 直之	兼任
			日本国憲法	15	植田 重幸	兼任
			東洋史概説	15	重信 あゆみ	兼任
			西洋史概説	15	松枝 啓至	兼任
			英語Ⅰ（初級）	15	竹内 恵子	兼任
15	長尾 晋宏	専任				
	英語Ⅱ（中級）	15	竹内 恵子	兼任		

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	英語Ⅱ(中級)	15	長尾 晋宏	専任
		英会話	15	Corinne Pitt	兼任
		医学英語	15	藤重 仁子	専任
		基礎英語演習	15	藤重 仁子	専任
		応用英語演習	15	藤重 仁子	専任
		MBS(Morinomiya Basic Seminar)	8	橋本 弘子	専任
			1	山下 仁	専任
			1	前川 佳敬	専任
			8	金森 幸	専任
			1	鍵野 将平	専任
		チーム医療見学実習	5	金森 幸	専任
			1	伊藤 直子	専任
			1	松下 太	専任
			1	小林 貴代	専任
			5	橋本 弘子	専任
			1	中村 めぐみ	専任
			1	中西 一	専任
			1	東 泰弘	専任
			1	由利 禄巳	専任
			1	兼田 敏克	専任
		医療コミュニケーション	8	中村 めぐみ	専任
		チーム医療論	8	由利 禄巳	専任
			1	増山 祥子	専任
			1	中根 征也	専任
			1	外村 昌子	専任
			1	関根 将	専任
			1	藤江 建朗	専任
			1	奥村 雅彦	専任
			1	松崎 伸介	専任
		1	大橋 明日香	専任	
		IPW論	9	橋本 弘子	専任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員			
				氏名	職名 (専任・ 兼任)		
基礎	科学的思考の基盤 人間と生活 社会の理解	IPW論	1	伊藤 直子	専任		
			1	松下 太	専任		
			4	小林 貴代	専任		
			1	中村 めぐみ	専任		
			1	中西 一	専任		
			1	金森 幸	専任		
			1	東 泰弘	専任		
			1	小川 泰弘	専任		
			4	由利 祿巳	専任		
			1	兼田 敏克	専任		
		基礎体育	15	伊奈 新太郎	専任		
			15	中原 英博	専任		
			15	佐野 加奈絵	専任		
			15	信江 彩加	専任		
		健康科学 (スポーツ社会学を含む)	15	佐野 加奈絵	専任		
		健康管理学 I	15	伊黒 浩二	兼任		
		健康管理学 II	15	伊黒 浩二	兼任		
		栄養学	15	南方 克之	兼任		
		身体運動科学	7	中根 征也	専任		
			3	杉本 圭	専任		
			5	松尾 浩希	専任		
		東洋医療概論	15	仲西 宏元	専任		
		統合医療概論	10	山下 仁	専任		
			3	増山 祥子	専任		
			2	森 美侑紀	専任		
		専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	人体の構造演習 I (運動器)	15	堤 真大	専任
				人体の構造演習 II (運動器)	15	堤 真大	専任
				人体の構造 I (神経系)	14	森谷 正之	専任
					1	吉田 篤	兼任
				人体の構造 II (循環・内臓)	15	森谷 正之	専任
人体の構造実習	15			川畑 浩久	専任		

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・ 兼任)	
専門基礎	人体の構造と機能 及び心身の発達	人体の機能Ⅰ(動物性機能)	15	竹下 ひかり	専任	
		人体の機能Ⅱ(植物性機能)	15	竹下 ひかり	専任	
		基礎運動学	15	中西 一	専任	
			15	東 泰弘	専任	
		臨床運動学	15	中西 一	専任	
			15	東 泰弘	専任	
		保健医療福祉とリハビリテー ションの理念	リハビリテーション概論	8	由利 緑巳	専任
				1	伊藤 直子	専任
	1			松下 太	専任	
	5			金森 幸	専任	
	2			兼田 敏克	専任	
	1			鍵野 将平	専任	
	公衆衛生学	15	今村 行雄	兼任		
	疾病と障害の成り立ち及び回 復過程の促進	生化学	15	南方 克之	兼任	
		病理学	15	竹下 ひかり	専任	
		臨床病態学Ⅰ	15	五十嵐 淳介	専任	
		臨床病態学Ⅱ	15	五十嵐 淳介	専任	
		臨床病態学Ⅲ	15	松崎 伸介	専任	
		整形外科学	15	宮田 重樹	兼任	
		小児科学(人間発達学)	10	伊藤 直子	専任	
			1	小宮山 恭弘	専任	
			1	竹岡 啓子	専任	
			3	金森 幸	専任	
		精神医学	15	正木 慶大	兼任	
			15	小川 泰弘	専任	
		精神医学各論	15	正木 慶大	兼任	
	15		小川 泰弘	専任		
臨床心理学	15	神澤 創	兼任			
リハビリテーション医学 (画像診断・予防・栄養含む)	15	前田 薫	専任			

専門基礎	保健医療福祉とリハビリテー	医療関係法規論	15	李 庸吉	兼任
------	---------------	---------	----	------	----

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容 シヨンの理念	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員			
				氏名	職名 (専任・ 兼任)		
		チームリハビリテーション概論	5	橋本 弘子	専任		
			3	三木屋 良輔	専任		
			3	中根 征也	専任		
			1	堀 竜次	専任		
			2	金森 幸	専任		
			2	渋谷 静英	兼任		
			2	戸名 久美子	兼任		
		介護学概論・ボランティア活動論	15	上田 喜敏	兼任		
		スポーツ医学	13	川畑 浩久	専任		
			2	吉岡 敏治	専任		
		専門	基礎作業療法学	基礎作業学	30	由利 禄巳	専任
					30	橋本 弘子	専任
					30	金森 幸	専任
30	小川 泰弘				専任		
30	鍵野 将平				専任		
作業科学入門	5			橋本 弘子	専任		
	3			小川 泰弘	専任		
	7			由利 禄巳	専任		
作業療法概論	15			伊藤 直子	専任		
	15			兼田 敏克	専任		
作業療法管理学	職場管理(教育を含む)		8	松下 太	専任		
	職業倫理		8	松下 太	専任		
作業療法評価学	作業療法評価学総論		7	松下 太	専任		
			4	橋本 弘子	専任		
			4	小川 泰弘	専任		
			2	鍵野 将平	専任		
	身体障害作業療法評価学		30	松下 太	専任		
		30	中村 めぐみ	専任			
		30	兼田 敏克	専任			
		30	鍵野 将平	専任			
専門	作業療法評価学	精神障害作業療法評価学	10	橋本 弘子	専任		

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
			11	小川 泰弘	専任
			15	伊藤 直子	専任
	作業療法評価学	発達障害作業療法評価学	15	金森 幸	専任
			15	中村 めぐみ	専任
		高次脳機能障害作業療法評価学	15	中西 一	専任
			15	兼田 敏克	専任
			15	兼田 敏克	専任
	作業治療学	日常生活活動学	15	小林 貴代	専任
			15	東 泰弘	専任
			15	兼田 敏克	専任
		身体障害作業療法治療学総論	9	中村 めぐみ	専任
			5	小林 貴代	専任
			6	中西 一	専任
			8	東 泰弘	専任
			7	兼田 敏克	専任
			7	兼田 敏克	専任
		精神障害作業療法治療学総論	11	橋本 弘子	専任
			9	小川 泰弘	専任
		高齢期障害作業療法治療学総論	15	松下 太	専任
			15	鍵野 将平	専任
		発達障害作業療法治療学総論	7	伊藤 直子	専任
			6	金森 幸	専任
		身体障害作業療法治療学各論	15	中西 一	専任
			15	西垣 孝行	専任
15			藤江 建朗	専任	
15			辻 義弘	専任	
15			小林 貴代	専任	
15	中村 めぐみ		専任		
15	東 泰弘		専任		
15	兼田 敏克		専任		
精神障害作業療法治療学各論	15	小川 泰弘	専任		
高齢期障害作業療法治療学各論	8	由利 禄巳	専任		
専門	作業治療学	高齢期障害作業療法治療学各論	8	鍵野 将平	専任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
		発達障害作業療法治療学各論	2	伊藤 直子	専任
			1	金森 幸	専任
		義肢装具学	14	小林 貴代	専任
			1	河村 廣幸	専任
			14	中村 めぐみ	専任
			14	兼田 敏克	専任
		作業療法特論 I	15	小林 貴代	専任
			15	伊藤 直子	専任
			15	松下 太	専任
			15	橋本 弘子	専任
			15	中村 めぐみ	専任
			15	中西 一	専任
			15	金森 幸	専任
			15	東 泰弘	専任
			15	小川 泰弘	専任
			15	由利 禄巳	専任
			15	兼田 敏克	専任
		作業療法特論 II	15	小林 貴代	専任
			15	伊藤 直子	専任
			15	松下 太	専任
			15	橋本 弘子	専任
			15	中村 めぐみ	専任
			15	中西 一	専任
			15	金森 幸	専任
			15	東 泰弘	専任
			15	小川 泰弘	専任
			15	由利 禄巳	専任
15	兼田 敏克		専任		
身体障害作業療法治療学演習	14	東 泰弘	専任		
	1	西垣 孝行	専任		
専門	作業治療学	身体障害作業療法治療学演習	1	藤江 建朗	専任

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・ 兼任)	
			1	辻 義弘	専任	
		身体障害作業療法治療学演習	14	小林 貴代	専任	
			14	中村 めぐみ	専任	
			14	中西 一	専任	
			14	兼田 敏克	専任	
		精神障害作業療法治療学演習	15	橋本 弘子	専任	
			15	小川 泰弘	専任	
		高齢期障害作業療法治療学演習	15	由利 禄巳	専任	
			15	鍵野 将平	専任	
		発達障害作業療法治療学演習	8	伊藤 直子	専任	
			8	金森 幸	専任	
		保健医療福祉とリハビリテーションの理念	総合リハビリテーションIPW演習	15	松下 太	専任
				8	角田 晃啓	専任
				11	中根 征也	専任
				8	国宗 翔	専任
	15			鍵野 将平	専任	
	地域作業療法学	地域作業療法学	15	由利 禄巳	専任	
		生活環境論	15	東 泰弘	専任	
			15	小林 貴代	専任	
			15	兼田 敏克	専任	
		障害者地域生活支援論	8	伊藤 直子	専任	
			4	小川 泰弘	専任	
			3	鍵野 将平	専任	
	作業治療学	卒業研究 I	25	小林 貴代	専任	
			25	橋本 弘子	専任	
30			松下 太	専任		
25			金森 幸	専任		
25			小川 泰弘	専任		
25			中西 一	専任		
25			中村 めぐみ	専任		
専門	作業治療学	卒業研究 I	25	東 泰弘	専任	

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員		
				氏名	職名 (専任・ 兼任)	
			25	由利 禄巳	専任	
			25	兼田 敏克	専任	
			25	伊藤 直子	専任	
			卒業研究Ⅱ (身体障害)	30	小林 貴代	専任
				30	中村 めぐみ	専任
				30	中西 一	専任
				30	東 泰弘	専任
				30	兼田 敏克	専任
			卒業研究Ⅱ (精神障害)	30	橋本 弘子	専任
		30		小川 泰弘	専任	
		卒業研究Ⅱ (高齢期障害・地域)	30	松下 太	専任	
			30	由利 禄巳	専任	
		卒業研究Ⅱ (発達障害)	30	伊藤 直子	専任	
			30	金森 幸	専任	
		臨床実習		臨地見学実習	/	金森 幸
	/				伊藤 直子	専任
	/				松下 太	専任
	/				小林 貴代	専任
	/				橋本 弘子	専任
	/				中村 めぐみ	専任
/	東 泰弘				専任	
/	小川 泰弘				専任	
/	由利 禄巳				専任	
臨床検査実習	/				小川 泰弘	専任
	/				小林 貴代	専任
	/				橋本 弘子	専任
	/				中村 めぐみ	専任
地域作業療法実習	/					
臨床評価実習	/				由利 禄巳	専任
	/	伊藤 直子	専任			
専門	臨床実習	臨床評価実習	/	松下 太	専任	

分野 (基礎・ 専門基礎 ・専門)	指定規則 教育内容	相当授業 科目名	担当 コマ 数	担当教員	
				氏名	職名 (専任・ 兼任)
				小林 貴代	専任
				橋本 弘子	専任
				中村 めぐみ	専任
				中西 一	専任
				金森 幸	専任
		臨床総合実習		松下 太	専任
				伊藤 直子	専任
				小林 貴代	専任
				橋本 弘子	専任
				中村 めぐみ	専任
				中西 一	専任
				金森 幸	専任
				由利 禄巳	専任

【自己評価 2-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程を体系的に編成している。	3
	養成施設指導ガイドラインに基づき、教育課程をおおむね体系的に編成している。	2
	養成施設指導ガイドラインに基づいていない、または教育課程を体系的に編成していない。	1

【自己評価 2-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	4
	シラバスにすべての授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法をおおむね明記している。または、大半の授業科目の授業計画、全体目標、成績評価基準・方法を明記している。	3
	シラバスの記載が十分ではない。	2
	シラバスが作成されていない。	1

【自己評価 3-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施している。	4
○	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習をおおむね実施している。	3
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を十分に実施していない。	2
	養成施設指導ガイドラインに従った診療参加型による臨床実習を実施していない。	1

【自己評価 3-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	講義と関連の実習が十分に連動して実施されている。	4
	講義と関連の実習がおおむね連動して実施されている。	3
	講義と関連の実習が十分に連動して実施されていない。	2
	講義と関連の実習が連動して実施されていない。	1

● 基本情報：臨床実習の見学又は実践する範囲とそれに関連する講義科目それぞれの開講時期を記入してください。

臨床実習の見学又は実践する範囲	開講時期	関連講義名	開講時期
医療提供施設、医療提供施設以外の施設、又は訪問リハ・通所リハの見学 臨地見学実習	1年前期	基礎ゼミナール	1年前期
		リハビリテーション概論	1年前期
		基礎作業学	1年前期
		作業科学入門	1年前期
医療提供施設、医療提供施設以外の施設での検査の実践 臨床検査実習	2年後期	作業療法概論	1年後期
		作業療法評価学総論	1年後期
		基礎運動学	1年後期
		日常生活活動学	1年後期
		臨床運動学	2年前期
		身体障害作業療法評価学	2年前期
		医療コミュニケーション	2年前期
		チームリハビリテーション概論	2年前期
精神障害作業療法評価学	2年後期		

		発達障害作業療法評価学	2年後期
		高次脳機能障害作業療法評価学	2年後期
		義肢装具学	2年後期
医療提供施設、医療提供施設以外の施設での評価の実践 臨床評価実習	3年通年	リハビリテーション医学	3年前期
		身体障害作業療法治療学総論	3年前期
		精神障害作業療法治療学総論	3年前期
		高齢期障害作業療法治療学総論	3年前期
		発達障害作業療法治療学総論	3年前期
		生活環境論	3年前期
医療提供施設、医療提供施設以外の施設での治療の実践 臨床総合実習	4年前期	身体障害作業療法治療学各論	3年後期
		精神障害作業療法治療学各論	3年後期
		高齢期障害作業療法治療学各論	3年後期
		発達障害作業療法治療学各論	3年後期
医療提供施設以外の施設での見学 地域作業療法実習	4年後期	地域作業療法学	3年前期
		障害者地域生活支援論	3年後期

【自己評価 3-3】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で十分な臨床実習が実施されている。	3
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設で一部の臨床実習が実施されている。	2
	養成所指導ガイドラインで定める要件を満たす主たる実習施設を置いていない。	1

【自己評価 3-4】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	適正な臨床実習指導者の下で実習が実施されている。	4
	適正な教員の監督指導の下で実習がおおむね実施されている。	3
	適正な教員の監督指導の下で実習が十分に実施されていない。	2
	適正な教員の監督指導の下で実習が実施されていない。	1

【自己評価 3-5】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制があり、対応が十分である。	3
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制はあるが、対応が十分でない。	2
	臨床実習におけるハラスメント防止のための体制がなく、対応も不十分である。	1

【自己評価 4-1】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	自己点検・評価の体制があり、改善に向けて機能している。	3
	自己点検・評価の体制はあるが、改善に向けて機能していない。	2
	自己点検・評価の体制がない。	1

●基本情報：自己点検・評価体制記入してください。

自己点検・評価組織名	自己点検評価・FSD委員会
委員名（委員長）	<p>・委員会は、次に掲げる委員をもって組織する。</p> <p>(1) 研究科長</p> <p>(2) 学部長</p> <p>(3) 学科長もしくは代行できる者</p> <p>(4) 共通教育センターより選出された者</p> <p>(5) 研究支援センターより選出された者</p> <p>(6) 事務局長および事務局長を代行できる者</p> <p>(7) 大学事務局管理職のうち2名以上</p> <p>(8) 総務課員 若干名</p> <p>(9) 学長の指名する者</p> <p>※ 委員長は、学長が指名する</p>
組織の開催頻度	月に一回開催

組織の取り組み内容	<ul style="list-style-type: none"> (1) 自己点検・評価の方針及び項目の作成に関する事 (2) 自己点検・評価の実施に関する事 (3) 自己点検・評価に関する報告書の作成及び公表に関する事 (4) 第三者評価への対応に関する事 (5) その他、理事長、学長が諮問した事項 <p>・FD・SDについて、次に掲げる事項を審議し、実行する。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1) FD・SDのための研修会の開催 (2) 教育、研究、臨床を積極的に展開できる環境作り (3) 本学教職員の資質維持・向上に関わる事項
自己点検・評価結果の公表	HPで公表 (URL :)

【自己評価 4-2】当てはまる自己評価欄に○をつけてください。

自己評価	評価内容	判定
○	シラバス記載内容を改善する仕組みがあり、シラバスの記載内容の改善が行われている。	3
	シラバス記載内容を改善する仕組みはあるが、シラバスの記載内容の改善は十分ではない。	2
	シラバス記載内容を改善する仕組みがない。	1

●基本情報：シラバス記載内容を改善する仕組みについて記入してください。

該当する 仕組み	名称	教務委員会
	委員構成等	(1) 学部長 (2) 各学科長または副学科長 (3) 各学科から選出された教員 1名 (4) 教務室長 (5) 共通教育部門から選出された者 1名 (6) 教務室員 1名 (7) その他、学長の指名する者 ※ 委員長は、学長が指名する。
	改善の仕組みの実際	改善が生じた場合、各学科での状況を取りまとめた後、教務委員会で審議する。

【自己評価 4-3】自己点検・評価及び第三者評価の結果を改善に繋げるための取り組みを記入してください。

第三者評価等の結果を自己改善による高等教育の質の向上に反映させるため、自己点検評価・FSD委員会、教務委員会での審議、そして管理運営会議、教授会で意見を聴き、学長が改善を実施する体制を構築している。